【青森県立青森高等学校　進路通信】

白聖はくあ

第19号　令和8年11月17日発行



《大学入試について学ぼう④ 併願校決定》

3年生の皆さんは、残り2ヶ月を切った大学入学共通テストへ向けてラストスパートに突入している頃ですね。1・2年生の皆さんにも、第1志望校を決めて目標に向かって頑張り始めた人もいると思いますが、併願校について考えたことはあるでしょうか？併願校は受験本番前に決めるもの、というイメージがあるかもしれません。しかし、併願校は単に「保険」という意味だけでなく、第1志望校の入試で存しっかりと実力を発揮するためにも、予め十分な検討が必要なものです。今回は併願校について「大学の特徴・魅力」「入試科目・難易度」「入試方式」「出願数」「受験スケジュール」の5つの項目に分けて解説します。

【大学の特徴・魅力】

併願校は、入学する可能性があることを踏まえると、各大学の特徴や魅力に目を向けることは不可欠です。学部や学科名が同じでも、大学によってカリキュラムや力を入れている専門分野、卒業後の進路の傾向などは、かなり異なっています。併願校だからと確認を怠ると、入学後に必ず後悔することになります。また、キャンパスの立地や通学環境、施設・設備の充実度も、大学生活の満足度に大きく影響する重要な要素です。現役生の声を含めて、これらの実態もリサーチしましょう。まず、「ここなら入学しても後悔しない」と思える併願校を見つけることが大切です。

学問・学び方

☑希望する専門分野を扱っているか
☑カリキュラムは自分に合っているか
☑興味が引かれる授業があるか

環境・施設

☑無理なく通学できる立地条件か
☑希望する暮らしを実現できる環境か
☑不便なく学べる施設を備えているか

卒業後の進路

☑就職・進学の傾向はどうか
☑希望する職業への就職実績はあるか
☑就職・資格取得の支援は手厚いか

【入試科目・難易度】

入試科目と難易度は、受験結果に直結する重要な条件です。併願校を検討する際は、自分の併願の目的、現状学力や今後の伸びしろを踏まえ、有利・不利や可能性を慎重に見極めましょう。まず、入試科目については、本命校を基準に、受験する科目を共通化するのが原則です。受験校の科目がバラバラだと、対策学習の効率が悪化し、全体の合格率も下がってしまいます。難易度については、自分の偏差値±3～5 の範囲から併願校を選ぶのが基本です。ただし、入試科目・配点や入試問題との相性によっては、高望みと思える大学でも挑戦してみるのもよいでしょう。

入試科目・難易度はここを押さえる

☑本命校と併願校で受験科目を共通化する
☑合格点までの得点戦略を練り、可能性を判断する
☑目安は偏差値 3～5 差の範囲で、極端な高望みは×
☑実際の難易度や相性は過去問で把握・判断する

【入試方式】

特に私立大学の入試方式は多様化・複線化していて、同じ大学・学部でも何種類もの入試方式を選べる場合も多くなっています。自分の併願の目的を達成するために、これらをうまく利用したいところです。そこで、まずはそれぞれの入試方式の特徴・メリットを理解して、自分の目的に合わせてどう生かせるのか考えてみましょう。それから最適なものを選択すれば、併願の効果をより高めることができます。下記に利用したい主な入試方式とその特徴・メリットを解説したので、それぞれの基本的なイメージを押さえてください。

受験日程を調整したい

〇試験日自由選択制…指定された複数試験日の中から都合のよい日を自由に選んで受験できる方式。連続受験を避けたり、他大学との日程重複を回避したりするのに役立つ。上位志望校なら複数日を受験するチャンスもあり。

〇全学部日程…学部別の日程とは別に、全学部の試験を同日程・共通問題で実施する方式。1回の受験で複数学部・学科を併願できる大学も多い。試験日の連続・重複回避のほか、同じ大学への挑戦回数を増やす際に有効。

（裏面に続く）

得意科目を生かしたい

〇英語外部検定利用入試…英検などの級・スコアにより英語の試験を免除したり、英語の得点に換算・加点したりする方式。当日の英語試験のプレッシャーを除去・軽減し他教科の対策に集中したいときに役立つ。

〇得意科目重視型…特定科目の配点を高く設定して合否を判断する方式。苦手科目の失点をカバーしたい場合や、特定科目で一発逆転を狙う目的のために利用できる。

労力・経費を削減したい

〇共通テスト利用入試…共通テストの成績（または個別試験との組み合わせ）で合否判定する方式。大学への移動負担や併願校の個別試験対策を削減でき、本命校の対策に注力したい場合に有効。受験料も割安な傾向が強い。

〇学外試験会場…本学キャンパス以外に全国の主要都市などに設けられた会場で受験できる制度。遠方への移動時間や宿泊費用、長距離移動による体力の消耗を抑え、地元近くで落ち着いて受験したい場合に最適。

【出願数】

併願する場合、基準となる出願数は本命校を含めて 5～6 校程度です。「挑戦校 1、実力相応校 3、安全校 2」が基本的なパターンです。これだけ出願しておけば、まずは十分だといえます。これをベースにして、本命校に集中したい人や難易度の高い大学に挑戦する人は、実力相応校・安全校の数を減らすとよいでしょう。本命校しか眼中にない人も、本命校の前に 1 回は個別試験を経験しておくと受験の雰囲気を知ることができます。一方で、これ以上増やす場合は、共通テスト利用入試などで対策や受験の負担を軽減することを考えましょう。むやみに校数を増やすと各校の受験対策が手薄になりますし、試験に臨む集中力も散漫になりがちです。もとより入学するのは 1 校だけですから、無駄な受験は省きつつ、好結果を期待できる併願を考えるようにしましょう。

出願数の典型パターン

〇基本型…最も一般的な併願パターン。これをベースに、各自の目的に応じてカスタマイズするとよい。



〇少数型…難関国公立大の志望者などは、併願校の数を絞って、本命校の対策に注力することが多い。



〇積極型…積極的に挑戦する強気パターン。数頼みにせず、対策や特典戦略などをよく考えて勝機を見出したい。



【受験スケジュール】

受験スケジュールは、本命校の試験日に学力・体力・メンタルのピークを合わせるのが原則です。最初の試験は安全校などで場慣れして、段階的に難易度を上げて手ごたえを得てから本命校に臨むのが理想的と言えるでしょう。

受験日の間隔にも配慮が必要です。過密な連戦による疲労を避け、心身を休めて頭を切り替える余裕を持つことが大切です。移動負担を減らす学外試験会場の活用も検討するのもよいでしょう。さらに、直前期は最も学力が伸びる貴重な時期ですので、学力強化に集中できる日数も十分に確保しましょう。自分の目的に応じた万全のスケジューリングで試験に臨んでください。

併願スケジューリングの秘訣

☑本命校の試験日を軸に全体の日程を組み立てる

☑段階的に難易度を上げて、自信を高めていく

☑3 日以上の連続受験は避け、リカバリーの時間を設ける

☑受験期でも学習日を確保し、最後まで実力向上を目指す

【旺文社・蛍雪時代より引用・抜粋】

【私立大学の一般入試の傾向】

2026 年度入試では、主要私立大学の一般選抜の志願者数が前年比で約 110％と増加しました。一方で合格者数は前年比で 95％と減少しました。つまり「志望者が増えて合格者が減った」ということです。その要因は一人あたりの受験校数の増加にあります。また、私立大学では総合型・学校推薦型選抜で早期に入学者を確保して、一般選抜の合格者数を抑えるケースや、2016 年度から文部科学省による「入学定員の厳格化」を受けて、収容定員超過の調整で入学者数を絞るケースが見られます。そのため、2027 年度入試でも同様の流れになると予想されています。